

春の妖精

スプリング・エフェメラル



フクジュソウ

スプリング・エフェメラルは、冬が終わってすぐの、まだ寒さが残る広葉樹林で花を咲かせる植物たちのことです。

早いものでは2月から咲き始め、他の植物たちが芽生えを待つ静かな落ち葉の林床で、華やかな姿でもって春の到来を告げる様子から、「**春の妖精**」とも呼ばれます。

春一番に咲いた花はすぐに終わり、葉だけの状態で夏まで光合成を行います。夏も盛りになる頃には葉もすっかり枯れてしまい、次の春まで地中で過ごします。夏に林床で咲こうとすると、葉の生い茂った高木が邪魔をして、日光を浴びることができないのです。この生活環は、より高い位置で光合成を行える高木との競争を避ける、植物の知恵なのでしょう。



ヤマエンゴサク

生田キャンパス内でも
見られる
スプリング・エフェメラル



ムラサキケマン



シュンラン

※常緑なので厳密には違いますが



カタクリ

Erythronium japonicum
ユリ科カタクリ属

今は使われていないが、片栗粉の材料となる。
芽が出てから開花するまで7~8年ほどかかり、それまでは葉のみを地上部に出している。



ニリンソウ

Anemone flaccida
キンポウゲ科イチリンソウ属

ひとつの株から二輪咲くことが名の由来。
山菜としても有名だが、葉が有毒のトリカブトとよく似ているため、誤食事件が起きやすい。



イチリンソウ

Anemonoides nikoensis
キンポウゲ科イチリンソウ属

ニリンソウより葉が深く切れ込み、花も5cmとかなり大きい。
一輪だけ咲くことからイチリンソウの名がついた。



アマナ

Amana edulis
ユリ科アマナ属

球根が甘く、食べられることから甘菜の名がついた。
チューリップに似ているので、以前は *Tulipa edulis* としてチューリップ属に入れられていた。